

クマと向き合う

■クマの出没状況

昨年度の市内でのクマの目撃件数は49件で、うち32頭が捕獲されました。令和4年度の目撃件数が22件で捕獲頭数が1頭、令和3年度の目撃件数が22件で捕獲頭数が3頭だったことを見れば、昨年度のクマの目撃件数および捕獲頭数がいかに大きな数であったかがわかります。また、昨年9月、10月の2カ月間の捕獲頭数が全体の7割だったことから、これらの季節がクマと遭遇するもっとも危険な時期になります。一人ひとりがクマ被害にあわないよう十分に注意を払う必要があります。

■クマの目撃情報のあと

クマの目撃情報があると、市は防災あんしんメール等で情報を流し、さらに住宅地に近い場所で見撃された場合には防災行政無線で情報を発信しています。あわせて、県の「クマダス」や市HPにてグーグルマップ上にクマ目撃場所を位置情報として掲載するなど、多くの人が正確な情報入手できるようにもしています。先般、ある市内の会合で、「クマの目撃情報はメールとかで知らされるが、その後がわからない。クマがどうなったかなどを知らせてもらうことはできないのか」といった質問を受けました。確かに多くの人が「その後はどうなったんだ？」と疑問を抱いているのは知っています。なのに、なぜその後について詳しく周知しないのか。それにはいくつか理由があります。

その一つに目撃されたクマと捕獲されたクマが必ずしも同一とは限らないこと。二つ目に、ある場所で見撃されたクマが捕獲されてもすぐに別のクマがその場所に入り込んでできていることがあります。実際、昨年度、同じ場所のワナで連続して4頭のクマが捕獲されたりしています。つまり、1頭捕獲したからといって安心はできず、むしろ一度できたクマの道を別のクマたちが使って人の生活圏に近づいてきていることがわかります。

ちなみに、市は捕獲用ワナの設置の有無についても公表をしていません。それは仕掛けられたワナに人が近づかないようにするためです。なぜなら臭いに敏感なクマは人の臭いのついたワナに近づかなくなるからであり、そして何よりも一般の人が興味本位で仕掛けられたワナを見に行きクマに遭遇するのを防ぐためだからです。

■クマとの距離

「クマ鈴を鳴らすとクマが寄ってくる。だからクマ鈴はつけない方がいい」といった意見をネットなどで見聞きすることがあります。しかしながら、私たちができる対策は「クマに遭遇しないようにすること」です。そのためには音を鳴らして自分の居場所をクマに知らせることが大事です。ふつうのクマは警戒心が強く、臆病です。クマに遭遇しないための有効な手段の一つとして、まずはクマ鈴を携帯することです。他方で、エサを求めて人里近くに降り

てきたクマは、警戒心よりも収獲されなまま残る栗や柿、放置された残飯や家畜飼料などといった人里の食べ物の魅力に負けてしまうと言われています。だとすれば、私たちが取組むべきもう一つの対策は、人里をクマのエサ場にしないこと、人里へのクマの進入路をなくすることだと思います。

市は町内会が周辺の栗と柿の木を伐採するときにかかる費用の半分（上限2万円）を補助する制度を設けました。また、電気柵の設置への補助や狩猟免許の新規取得への補助を行っています。その他にも、クマの目撃情報等が多い場所の藪の刈払いも行っています。

かつて、人々は日常生活の中で人と動物の境界をはっきりと分けてきました。近年、集落の人口が減り、それにともない手入れされないまま放置された農地が数多く見られるようになりました。その結果、人と動物の境界があいまいになってしまいました。まずはこの状態を改善していくことです。クマと人との距離をかつてのようなほどよいものに戻すことができるか、このことが今問われているのかもしれない。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

